

28 理療教育臨床室における患者実態調査

理療教育・就労支援部理療教育課 加藤 麦

【はじめに】

理療教育臨床室（以下、臨床室）は当センター開設当初より、利用者のおん摩マッサージ指圧（以下、あま指）、および鍼灸の臨床実習を実施する場として外来患者の施術を行っている。これまで各年度の臨床実習統計を理療教育課業績集で報告してきたが、来室患者の特性を把握するための実態調査は行っていなかった。そこで今回は平成22年度に臨床室で施術を受けた患者を対象に、施術録に基づく実態調査を行い、来室患者の基本特性を明らかにした。

【方法】

調査対象者は平成22年4月1日から平成23年3月31日までに臨床室にてあま指施術、または鍼灸施術を受けた患者とし、臨床室施術録から患者の基本情報、基礎疾患、医療機関の受診状況、主訴、施術回数、施術種別などの項目について単純集計を行った。

【結果】

22年度の延べ来室患者数は2106名、初診が3.0%、再診が97.0%であり、男性28%、女性72%であった。平均年齢は63.7±13.8歳、年齢階級では60代が最も多く（33.0%）、ついで70代（32.8%）、50代（12.7%）の順であった。居住地は所沢市（73.0%）が最も多く、所沢市の近隣市町村で9割近くに達した。

初診時に確認された基礎疾患としては、筋骨格系疾患（26.5%）が最も多く、ついで高血圧症（26.0%）、腫瘍性疾患（14.0%）、糖尿病（10.7%）、消化器系疾患（10.5%）の順であり、基礎疾患がない患者は14.3%に留まった。

主訴としては、腰殿部の痛み（44.0%）が最も多く、ついで頸肩部のこり（43.0%）、下肢の痛み（16.0%）、膝の痛み（13.6%）、肩の痛み（11.5%）の順であり、疼痛軽減を求めて来室する患者がほとんどであった。その他、胃腸障害、倦怠感、手足の冷え、むくみ、めまいなどの訴えもみられた。また、主訴の数をみると1回の施術で主訴を2つ以上訴える場合が63.4%もあった。

主訴に対する医療機関の受診状況は、病院・診療所が57.8%（うちセンター病院受診は10.9%）、治療院が4.8%、医療機関未受診の患者は37.3%であった。

【考察】

今回の調査結果から理療教育臨床室に来室する患者の性別や年齢層、主訴などは開業鍼灸院に来院する患者層と同じ傾向を示し、開業を目的とした就労移行支援としての臨床実習に適した患者層であることが示唆された。しかし、基礎疾患を抱えている患者が多いことから、施術に当たっては施術方法の選択や刺激量に十分な注意が必要であり、臨床実習では施術の適否判定を含めた医療面接や身体診察の指導が重要となる。

今後も継続的に患者の実態調査を行うことで、理療教育臨床室や臨床実習の運営を検討する際の資料としていきたい。